

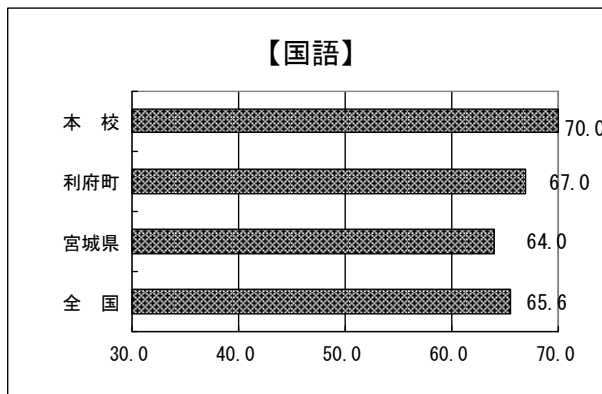
令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果とこれからの取組

4月19日（火）に、全国の公立小学校に通う6年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が行われ、その結果が各校に7月末に届きました。これに基づいて、この度、本校の児童の学習や生活の状況について、よさや課題についてまとめましたので、お知らせいたします。

なお、個人票もあわせてお渡しいたしますのでお読みいただき、お子さまのこれからの学習と生活の改善に役立てていただきますようお願い申し上げます。

1 学力調査の結果

【国語】 平均正答率%

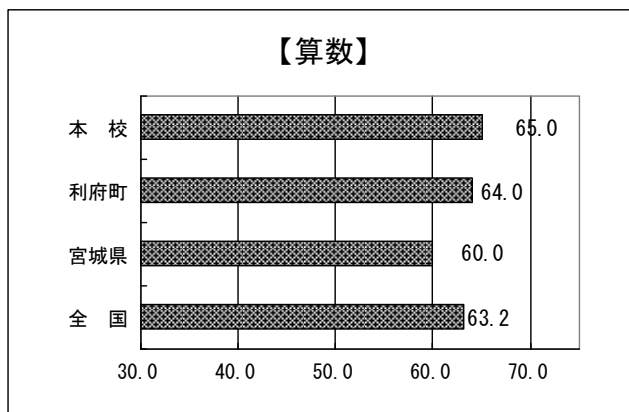


- ・ 国語については、全国の平均正答率を4.4pt上回っており、学習指導要領の内容である「知識・技能」は6.9pt、「思考力・判断力・表現力等」は2.2pt高く、大変良好な結果となりました。
- ・ 内容別に見ていくと、全国正答率との比較では「言語事項に関わる2項目」で6.1pt, 11.1pt, 「読むこと」では1.6pt上回りました。特に「書くこと」は7.7ptも高く、例年の課題が解決された結果となりました。

具体的な学習状況 (◎ よくできていた点 ● 課題として挙げられる点)

- ◎ 想像した人物像や全体像と関連して、表現の効果を考える問題は全国、県平均を10pt以上、上回りました。【問題2の三】
- ◎ 文章に対する感想や意見を伝え合い、文章のよいところを見付ける問題は、高い正答率でした。【問題3の二】
- ◎ 漢字を文中で正しく使ったり、仮名の大きさ、配列に注意して書く問題では全国平均を大幅に上回りました。【問題3全般】
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像して、条件と字数制限がある記述式の問題が課題となりました。【問題2の二】

【算数】 平均正答率%

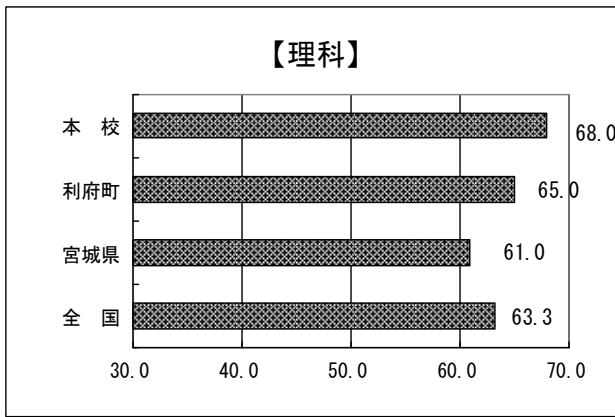


- ・ 算数については、全国の平均正答率を1.8pt上回りました。学習指導要領の内容である「知識・技能」は0.7pt、「思考力・判断力・表現力等」は3.4pt高くほぼ全国と同等かそれ以上の結果となりました。
- ・ 領域等の平均正答率では、「数と計算」で1.7pt, 「図形」で6.2pt, 「データの活用」で4.4pt全国平均を上回りました。「変化と関係」の項目は2.7pt下回るようになりましたが、全体的に良好な結果となりました。

具体的な学習状況 (◎ よくできていた点 ● 課題としてあげられる点)

- ◎ 表の意味を理解し、全体と部分に着目して、ある項目の数値を求める問題は全国・県正答率を上回りました。【問題3の(1)】
- ◎ 正三角形の構成の仕方について考察し、記述する問題の正答率が高かったです。【問題4の(1)】
- ◎ 上記と関連してプログラミングに関する問題全般について3~8pt全国平均を上回りました。【問題4の(2)~(4)】
- 百分率の分数表示、比較量の求め方、応用問題と割合の問題が唯一全国平均を下回りました。【問題2の(1)~(3)】

【理 科】 平均正答率%



- ・ 理科については、全国の平均正答率を 4.7pt 上回りました。学習指導要領の内容である「知識・技能」は 8.3pt、「思考力・判断力・表現力等」は 2.2pt 高く全国を大きく上回る結果となりました。
- ・ 区分・領域等の平均正答率では、「A エネルギー」で 6.6pt、「A 粒子」で 7pt、「B 生命」で 2pt、「B 地球」で 7.5pt と大きく全国平均を上回りました。
内容、区分・領域共に全て全国平均を上回り、授業で学んだ学習内容がしっかり身に付いていました。

具体的な学習状況 (◎ よくできていた点 ● 課題としてあげられる点)

- ◎ 実験器具の名称や正しい使い方、それらを使用した実験についてその結果から自分の考えをもち、それを記述する問題に全国的に高い正答率となりました。【問題 2 の (1) ~ (4)】
- ◎ 光の性質を正しく理解することができました。また、実験の結果を適切に記録して自分の考えを導き出す問題では、それぞれ全国平均を約 10pt 程度上回りました。【問題 3 の (1) (2)】
- ◎ 予想や観察の結果から、問題解決の道筋や結果から考えられる一般的な事象などについて自分の考えをもつことの問題はそれぞれ約 10pt 以上全国平均を上回りました。【問題 4 の (2) (3)】
- 観察で収集した情報と追加された情報を基に、まとめを検討して、自分の改善案を考え、それを記述する問題の正答率が課題となりました。(全国平均を 11.3pt 下回りました。)【問題 1 の (2)】

2 今後の取組について

(1) 国 語

- 課題に対して、「記述する力」や「考える力」を更に付けるために国語科をはじめ、各教科で「読むこと」「自分の考えを書くこと」「自分の思いを話すこと」を大切にして指導を進めていきます。
- 漢字の読み書きの更なる習熟を図り、特に漢字は文脈の中で使えるように、日頃から練習を積み重ねていきます。
- 字数制限やキーワードの使用などの条件を満たして文章を書く力を高めていきます。

(2) 算 数

- 課題を明確に提示し、何について考え学んでいるのかを意識させる授業づくりをしていきます。
- 授業の中での習熟場面はもちろん、朝のスキルタイムや宿題プリントなどを通し、計算力の向上や基本問題の確実な解決など基礎基本の習得を図ります。それを基にして、発展的な問題について考えられるような素地を育てていきます。
- 学習時間に意図的に自分の考えを書く場面や、互いに話したり、聞いたりする場面を設定し、筋道を立てて考え、相手に説明する力と学び合いの姿勢を向上させていきます。

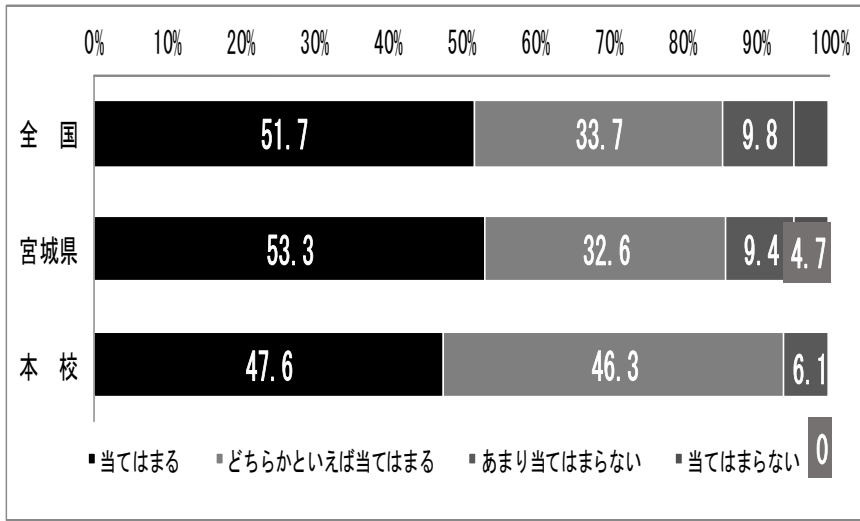
(3) 理 科

- 理科専科から 9 月 12 日付の「理科だより」でお知らせしたように『自分の考えを文章にする』面が若干ウィークポイントとなっていました。そこで実験の予想や結果の考察、観察の結果から考えるなど科学的な事象から一般化を図る過程で『自力解決 (自分の考えをプリントに文章化する) ⇒ グループ・全体で考えを練る (学び合い)』という学習過程を定着させて弱点を克服していきます。

3 学習状況調査の結果

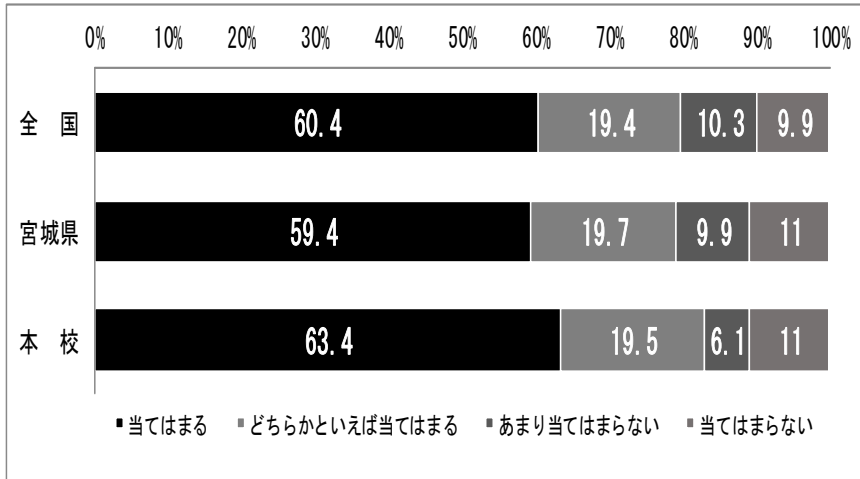
(1) よい傾向が見られる項目

※学校に行くことが楽しいか（相互理解・学級経営）



学校に行くことを楽しみにしている児童が約 94%, 更に特筆すべきは「当てはまらない」と回答した児童が一人もいないことです。このことから、今回の好成績の基本は、「学校に来て、楽しく学習できている」ことが大きな要因と考えられます。また、学年・学級が常に落ち着いた状態で過ごせていることや友達との良好な関係を構築できていることなどがうかがえます。中学校進学に向けて、更にレベルアップしていけるように指導していきます。

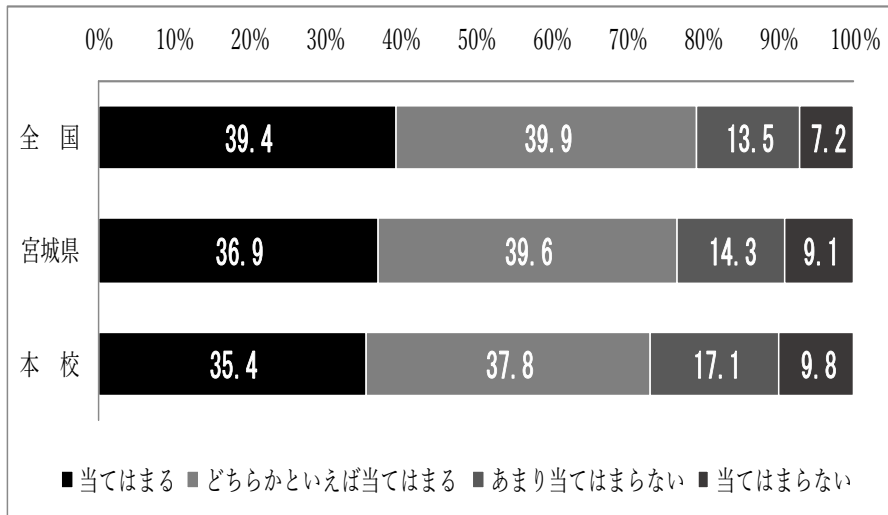
※将来の夢や目標を持っているか（キャリア教育）



将来の夢や目標をもっていると回答している児童が約 83% います。全国・県と比較しても利府小の児童は、未来に希望をもって生活していることがうかがえます。キャリア教育が推進されている今日、利府町が推進している 5 シップの理念の下、引き続き、児童の興味や関心、将来を見据えて何事にも意欲的に取り組む姿勢を育む指導を心掛けていきます。

(2) 改善が必要と思われる項目

※自分には、よいところがあると思うか。（自己肯定感の醸成）



この自己肯定感を問われる質問では、肯定的に捉えている児童が 73.2% もいますが、相対的に全国・県と比較すると若干数値が低いのが気になります。上記の 2 つの項目の回答傾向から、互いに認め合い、将来に希望をもって望ましい学校生活を送っている反面、どこか自分に自信をもちきれない姿勢があると思われます。学校生活全般において、自他のよい面を見付け、それを相手に伝えるように声掛けしていきます。それにより、自己肯定感の醸成と相互理解の姿勢を更に育みたいと考えています。